



平成 29 年 5 月 12 日

各 位

会 社 名 大同メタル工業株式会社
代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者 判治 誠吾
(コード：7245 東証第 1 部・名証第 1 部)
問合せ先 常務執行役員
経営・財務企画ユニット長 小暮 圭一
(TEL：052-205-1400)

減損損失（連結）および関係会社株式評価損（個別）の計上に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 3 月期（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）において、特別損失として、固定資産の減損損失（連結）および関係会社株式評価損（個別）を計上いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 減損損失（特別損失）の内容 <連結>

(1) 当社の連結子会社であるエヌデーシー株式会社が保有する土地について、市場価格の低下による減損の兆候が認められたことにより、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、2,311 百万円を減損損失（特別損失）に計上しております。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益への影響額は 945 百万円です。

(2) 同じく当社の連結子会社である大同インダストリアルベアリングヨーロッパ LTD. において中高速ディーゼル事業の世界的な需要の低迷を受け、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、同社の製造設備等に対して将来の回収可能性を検討した結果、回収可能価額が帳簿価額を下回ったことから、138 百万円を減損損失（特別損失）に計上しております。

上記(1)及び(2)による親会社に帰属する当期純利益への影響額は合計で 1,083 百万円です。

2. 関係会社株式評価損（特別損失）の内容 <個別>

(1) 上記減損損失の発生により、大同インダストリアルベアリングヨーロッパ LTD. の純資産が毀損し、当社が保有する同社株式の実質価額が著しく下落することとなったため、関係会社株式評価損（特別損失）として 142 百万円を計上しました。

(2) 当社の連結子会社である大同メタル U.S.A. INC. に於いて、急激な受注増に伴い同社の委託加工先であるメキシコ工場のコスト増加が当初想定以上であったことから、同社の予定していた事業計画の達成に遅れが生じたことにより、当社が保有する同社株式の実質価額が著しく下落することとなったため、関係会社株式評価損（特別損失）として 3,959 百万円を計上しました。

なお、これらの関係会社株式評価損は連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

3. 業績に与える影響

上記の特別損失を計上した平成 29 年 3 月期決算の内容につきましては、本日（平成 29 年 5 月 12 日）発表しております「平成 29 年 3 月期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご覧ください。

以 上